

青森競輪場7施設の耐震診断結果について

1 診断の対象建築物【耐震診断努力義務対象施設】

建物名称	建物概要		
①北側スタンド棟	昭和56年建築 延床面積2,273㎡	1階 鉄筋コンクリート造	2階 鉄骨構造
②ドリームスタンド棟 (渡り廊下含む)	昭和56年建築 延床面積1,118㎡	1階 鉄筋コンクリート造	2階 鉄骨構造
③北側ゲート棟	昭和56年建築 延床面積1,340㎡	1階 鉄骨構造	
④北西ゲート棟	昭和56年建築 延床面積331㎡	1階 鉄筋コンクリート造・鉄骨構造	
⑤西側店舗棟	昭和56年建築 延床面積543㎡	1階 鉄筋コンクリート造	
⑥東側店舗棟	昭和56年建築 延床面積216㎡	1階 鉄筋コンクリート造	
⑦東側トイレ棟	昭和56年建築 延床面積72㎡	1階 鉄筋コンクリート造	

2 耐震診断の結果

耐震性に問題あり ⇒ ①北側スタンド棟 ②ドリームスタンド棟 (渡り廊下含む)

耐震性に問題なし ⇒ ③北側ゲート棟～⑦東側トイレ棟

〔①北側スタンド棟、②ドリームスタンド棟 (渡り廊下含む) の測定値〕

① 北側スタンド棟	コンクリート造部	Is値	IsO値	判定
	1階X方向(横)	0.96	0.54	OK
	1階Y方向(縦)	0.77		OK
	鉄骨構造部	Is値	IsO値	判定
	2階X方向(横)	0.15	0.6	NG
	2階Y方向(縦)	0.14		NG

② ドリームスタンド棟 (渡り廊下含む)	コンクリート造部	Is値	IsO値	判定
	1階X方向(横)	1.91	0.54	OK
	1階Y方向(縦)	0.88		OK
	鉄骨構造部	Is値	IsO値	判定
	2階X方向(横)	0.43	0.6	NG
	2階Y方向(縦)	0.31		NG

※用語の意味は次のとおり

- ・ Is値 : 建物の耐震性能の測定値
- ・ IsO値 : 建物の耐震性能の基準指標

※耐震性能の判定

震度6強程度の地震の振動及び衝撃に対して・・・

- (1) Is値が0.6以上 ⇒ 倒壊、または崩壊する危険性が低い
- (2) Is値が0.3以上0.6未満 ⇒ 倒壊、または崩壊する危険性がある
- (3) Is値が0.3未満 ⇒ 倒壊、または崩壊する危険性が高い

3 今後の対応について

現在の施設の使用頻度や使用方法を鑑みつつ、今後の対応を検討する必要がある。今後、包括委託先で施設管理業務を担っている日本トーター㈱とも協議しながら、検討を進めていく。

〔北側スタンド棟・ドリームスタンド棟（渡り廊下含む）の現状〕

建物名称	現在の使用頻度・使用方法
①北側スタンド棟	<p>○FⅠ・FⅡレースはもとより、みちのく記念競輪（GⅢ）開催期間中であっても、お客様の使用頻度は数える程度である。</p> <p>○1階に設置している第10投票所は、総窓口84箇所に対し、みちのく記念競輪（GⅢ）開催時に4箇所のみ使用している。</p> <p>⇒ 現状から考えると、「耐震補強工事」以外にも「耐震性に問題ありとされた2階屋根部分のみを撤去し、耐震性の問題を解消する」ことや「全面撤去」も選択肢として考えられる。</p>
②ドリームスタンド棟（渡り廊下含む）	<p>○普段は、青森競輪場温泉利用者の休憩所として使用。</p> <p>○みちのく記念競輪（GⅢ）開催時、スポーツ紙等の記者室として、また、特別室として用意している4部屋を招待者のかたに使っていただいている。</p> <p>○渡り廊下は、青森競輪場温泉利用者が温泉（選手管理棟内）と休憩所（ドリームスタンド棟）の行き来で使用。</p> <p>○また、みちのく記念競輪（GⅢ）開催時、記者が取材のために記者室（ドリームスタンド棟）と選手管理棟を行き来するために使用。</p> <p>⇒ ドリームスタンド棟は、現状を鑑みると「耐震補強工事」をすることが望ましいと考える。しかし、渡り廊下については、温泉利用あるいは記者の取材にかかる運用方法を見直すことで、必ずしも補強工事を要するのか、検討する余地があるものとする。</p>

4 耐震補強工事に要する概算見積額

- 北側スタンド棟 約61,500千円
- ドリームスタンド棟 約38,600千円
- 渡り廊下（撤去及び新設） 約22,100千円

※北側スタンド棟の「2階屋根部分のみ撤去」「全面撤去」に要する費用、また、「渡り廊下を全面撤去し新たな運用方法とする場合」に要する費用については、今後見積りを徴する必要がある。